

令和4年度 静岡県立浜松聴覚特別支援学校 学校経営計画

1 目指す学校像

(1)教育目標

言語力を向上させ、自分のよさや可能性を最大限に伸ばし、「共生・共育」社会を実現する担い手として自ら考え、判断、実践できる『たくましく心豊かな幼児児童生徒』を育てる。

- ア 聴覚障害の特性に対応した指導により、乳幼児・幼稚部では豊かな生活言語の獲得、小中学部では学習言語と学年相応の学力の獲得を目指す学校。
- イ 聴覚障害のある自分に自信と誇りをもたせ、子どもたちの「夢の実現」をサポートする学校。
- ウ 地域で聴覚障害のある子を育てる保護者や地域の幼稚園保育園、小中高等学校で学ぶ子や先生方から頼りにされる学校

(2)目指す子ども像

- 自ら進んで人とかかわり、思いやりの心が持てる子
- 自ら考え、判断し、表現できる子
- 自ら遊び、自ら学習に取り組める子
- 自ら健康を心掛け、心と体を鍛えることができる子

(3)目標具現化の柱(中期目標)

テーマ 「人・物・事と真剣に向き合えるたくましい教員集団を目指す。

- ① チーム対応力を高め安全・安心な環境を整備し、効率的、効果的な学校運営を行う。
- ② 聴覚障害教育の専門性を発揮し、言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践し言語拡充と基礎学力の向上を図る。
- ③ 個の実態を踏まえ、社会自立に向けて生活力を豊かにする自立活動を実践する。
- ④ 自己理解を深め、地域社会の中でよりよく生きる力を養うための共生教育を実践する。
- ⑤ 聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

2 本年度の取り組み（重点目標はゴシック体）

- ① チーム対応力を高め安全・安心な環境を整備し、効率的、効果的な学校運営を行う。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	安心・安全な学校生活を送るための環境及び体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応訓練（養教不在時・熱中症・嘔吐時）と救急法研修の実施 ・緊急時連絡体制の確認と研修の実施 ・食に関して、毎月一つテーマを決め、学部や学級と連携した組織的な展開と実施 	緊急時に対応できる教職員の対応力の向上と学校組織の構築ができたと答える教職員 100%	保体課 全職員
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練(3回/年)および防犯訓練(1回/年)の実施 ・交通安全教室、携帯安全教室、通学路の安全点検の実施(1回/年) 	災害や事故発生時に自らの命を守ることや事故が起きないように気をつけることができる児童生徒の育成ができたと答える教職員 100%	生徒指導課 全職員

		<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育指導表への記入呼び掛け（各学級／通年） ・職員向け人権教育についての伝達講習及び人権研修(1回/年) 	道徳や日常的な指導を通して、自他を大切にし相手を思いやる気持ちの育成を図ることができたと答える教職員 100%	生徒指導課 全職員
		<ul style="list-style-type: none"> ・4月に予算配分し、7月末と10月中旬に執行状況を揭示し、10月末までに各分掌等の予算を確定し、使用見込みの無い予算を修繕等の課題解決に活用する。 	学校経営予算の効率的な執行による修繕箇所の早期着手ができたと答える教職員 100%	事務部
イ	交通事故、不祥事根絶に向けた校内体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全研修の実施(全体・学部各1回) ・不祥事事例に基づく学部研修(2回) 	交通事故・不祥事根絶に向けた職員の意識向上ができたと答える教職員 100%	企画会 全職員

② 聴覚障害教育の専門性を発揮し、言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践し言語拡充と基礎学力の向上を図る。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	「きこえにくさ」とそれに伴う特性の理解と、コミュニケーション力、対応力、指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもとかかわるときのチェックリスト」を活用したセルフチェック（学期に1回）、客観チェック（1授業研に合わせて） ・学習会の実施や学習の機会の設定 ①全体学習会（年2回） ②選択学習会（4講座以上） ③「自立課からあなたへ」を通じた基礎基本の確認と啓発（年10回程度） ④手話学習会（年7回） ⑤「今日の手話」表現・読み取り ⑥広く参加者を募るケース会（年10回以上） 	聴覚障害教育における専門性を発揮した指導力の向上ができたと答える教職員 100%	自立活動課 全職員
イ	発達段階に応じた言語力の獲得と基礎学力の定着を図る授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、指導を公開、参観する体制の整備（随時） ・授業、指導について話し合う機会の設定（月1回以上） ・「めざす子どもの姿」を共通理解し、幼児児童生徒の将来像を明確にした指導ができるためのグループ研修の設定 ・各グループでの講師招聘研修の実施（年1回） ・研修会（実地、オンライン）への積極的な参加の呼び掛け（随時） 	授業・指導を通して担当する幼児児童生徒の成長が見られたと答える教職員 100%	研修課 全職員

		<ul style="list-style-type: none"> ・両親教室の実施 ・家庭ごとに親子コミュニケーションの基礎を作る支援や、サイン・手話などのコミュニケーションに使える手立てについての支援を行う。 	保護者が子どもとよりよく関わることができたと答える教職員 100%	乳幼児教室
		<ul style="list-style-type: none"> ・あそびが広がる教室環境についての検討会（クラス持ち回りで毎学部会で実施） 	言語の基礎となるあそびの充実ができたと答える教職員 100%	幼稚園部
		<ul style="list-style-type: none"> ・今日の天気やニュース、季節にかかわる言葉等のタイムリーな話題を取り上げ、話したり聞いたりする機会を設定。（各学級適時） ・各学級で取り組んでいる言語拡充の実践を紹介し合う場を設定。（年間2回 研修とリンク） 	基礎学力の定着を支える言語拡充ができたと答える教職員 100%	小学部
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で、問題解決学習を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業実践における生徒の基礎基本の定着と深い学びが展開できる授業力の向上ができたと答える教職員 100% 	中学部
ウ	読書活動を通じた言語力向上の基礎づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動の推進 幼：読書通帳の活用、一人3冊貸し出し、おすすめ本の紹介（廊下や図書室等に掲示） 小：図書の日、図書委員会によるおすすめ本の紹介、幼稚園部への読み聞かせ、クイズ等の実施 中：朝読書（10分間）、読書に関する掲示、図書委員会によるイベントの実施（スタンプカード、読み聞かせ）年1回以上 	読書活動の推進による生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上ができたと答える教職員 100%	教務・情報課 全職員
エ	校内における専門性の向上と継承	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初面談や学部主事面談を通じて全職員を対象にOJTへの取り組みを推奨。 	自らに必要な新たな知識や技能等が身についたと答える教職員 100%	企画会

③ 個の実態を踏まえ、社会自立に向けて生活力を豊かにする自立活動を実践する。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	社会自立に向けて必要な力の習得や向上を図る自立活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・舎生の実態に関する担当教員や指導員間での情報共有。 ・舎生の主体性を重視した行事の計画と実施。 ・舎生の自立に向けた外食や買い物等の体験。（学期2回） 	日常生活の自立に向けた児童生徒個々の生活力の向上ができたと答える教職員 100%	寄宿舎 自立活動課

		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動記録表を活用した、子どもの現状や課題の共通理解 (年3回) 	保護者と共に行う自立活動の充実ができた と答える教職員 100%	幼稚園 自立活動課
		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を活用した児童の実態と課題の共通理解 (10回/年) ・系統性を考えた校外学習の計画と、年間実施表の作成。 	自己の将来や夢につながる指導の系統性と内容の充実ができた と答える教職員 100%	小学部 自立活動課
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や自立活動における、あいさつや適切な言葉遣い、社会的マナー、自他の障害認識を深める授業の実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活や自立活動を通して、障害認識を深めるとともに、適切な進路を選択する力の向上につながった と答える教職員 100% 	中学部 自立活動課 生徒指導課
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童自らが補聴援助システムを操作しながら行う授業実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴援助システムを効果的に活用できる技能の向上ができた と答える教職員 100% 	全学部 自立活動課
		<ul style="list-style-type: none"> ・通級生の聴こえについての自己理解を深める授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級生が聴こえについての自己理解が深まった と答える教職員 <u>100%</u> 	通級指導 教室
		<ul style="list-style-type: none"> 他校の進路指導の手引き作成の検討 アフターケアの方法の確認、実践、周知 キャリアパスポートの幼小中方法の確認と実践 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導・支援の内容について理解が向上し、進路指導に活かされた と答える教職員 100% 	生徒指導課 各学部
イ	多様化する児童生徒の実態を的確に捉えた、学習指導や支援の充実と教育課程の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の計画的な活用の推進 ・活用のための年間日程作成 ・個別の指導計画検討会の実施 ・保護者との連携推進 ・外国籍の家庭への文書の翻訳・ 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の目標、支援内容、実態等について、保護者と教員、また、教員間で情報共有することができた と答える教職員 100% 	教務・情報課 全職員
		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した指導等の推進 ・一人一台端末を活用した指導の推進 ・情報提供(活用例、アプリケーション等の紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の有効活用のために、使用のルールや、基本的な使用方法について指導することができた と答える教職員 100% 	教務・情報課

④ 自己理解を深め、地域社会の中でよりよく生きる力を養うための共生教育を実践する。

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
ア	地域で生きるための力を養う共生教育の実践	・地域の自然に多く触れることのできる校外散歩の実践。(春、秋)	地域の自然を活用できた。また、公共の場	幼稚園

		5回ずつ)	でのマナーの向上ができたと答える教職員 100%	
		・学部会や個々の面談による学校間交流、交流籍を活用した交流、特支間交流の目的と内容の見直しと実践	個々の自己理解力、対応力の向上ができたと答える教職員 100%	小学部
		・生徒同士のかかわりを主たる目標とした交流籍交流を実施する。	地域における行事への参加や同年代とのかかわりを主体的に深められる生徒の育成ができたと答える教職員100%	中学部

⑤ 聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	本校教育活動の積極的な発信	・教育・保育・福祉・医療関係者に向けた学校見学会の実施 年1回	・本校に通う幼児・児童・生徒の実態や教育活動についての理解啓発ができたと答える教職員 100%	支援部
イ	地域におけるセンター的役割と校内支援体制の充実	・通級指導教室・乳幼児教室や相談室利用者の在籍校・園訪問の実施 ・難聴児担当者研修会 年1回 ・校内支援会議 年3回実施・	校内及び地域その他機関との連携を図ることができたと答える教職員 100%	